
私の恋人は魔法使いです。

高宮 栞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私の恋人は魔法使いです。

【Nコード】

N8872H

【作者名】

高宮 栞

【あらすじ】

自称魔法使いの先輩とリリーちゃんのある日の日常。

「センプーイ？もう帰っていいですかー？」

放課後の化学室で、私は机の上に腰掛け足をプラプラと揺らす。

お行儀悪いよねー……。

でも、目の前で木の棒を振り回す先輩を見ても退屈なのだから仕方ない。

自称魔法使いの先輩は、魔法で鳩を出すんだと悪戦苦闘している。

手品かよ。

何度そう突っ込みそうになっただろうか。

純粋な先輩はシルクハットから鳩が出てくることを信じ、ずっと棒を振り回しているのだ。

ていうかシルクハットなんてどこから持ってきたんだろう……。

「待ってリリーちゃん！今度こそできそうな気がするんだ！いや、絶対できる。俺はやればできる子だー！」

「センプーイ、その呼び方やめてくださーい。」

何度も言いますけど、私の名前は百合ですよー」

私の言葉なんて吹き飛ばす勢いで、先輩は手を振り続ける。

もう何を言っても届かないな、コレは。

仕方なく、先輩の魔法が成功するのをひたすら待つ。

こんなことは日常茶飯事だから、もうすっかり慣れた。

いつまでも少年の心を忘れない……というかまったく精神年齢に成長が見られない先輩は、夢中になるとすべてを忘れる。

それに自らを魔法使いだと名乗っていることもあり、よく周りから馬鹿だ馬鹿だってからかわれる。

そんな先輩と、文化祭のミスコンで優勝した私が、まさか付き合うことになるなんて誰も予想しなかったらしく、二人で登校した日は物凄い騒ぎになったものだ。

先輩の言葉なんて誰も信じてないけど、私は魔法使いなんだろうと思ってる。……かなりシヨボいけど。

実際、先輩は私に告白するときも魔法を見せてくれた。

ぎゅっと握り締めた手の平から、たんぽぽの花が現れたとき、私は思わずトキめいてしまったのだ。

みんなは手品だって言うけど……私は本当に嬉しかったから、魔法だって信じてる。

「センパイ。今できなくても、もっと修行すればいいじゃないですか。」

いつかきつと鳩がでてきますよ」

マジシャンに教えてもらえば確実だし。……あれは手品か。

「リリーちゃんが信じていてくれるなら、俺は諦めるわけにはいかない！」

俺はリリーちゃんを喜ばせたいんだ……！」

今すぐ帰って放課後デートしてくれた方が嬉しい……なんて言える雰囲気じゃない。

「じゃあセンパイ！次がラストチャンスです……！できなかつたらモスバーガーおごってくださいーい」

「任せろ！」

気合い十分な先輩は、思い切り木の棒を振り下ろした。

そして次の瞬間、シルクハットから何かが飛び出てくる。

「……」

「……」

互いに無言で顔を見合わせ。

「やったよりリーちゃん！鳩のヒナだ！！」

「凄いです先輩！どう見てもスズメですけど……でもやりましたね！」

スズメはすぐに飛び立ってしまったものの、鳩のヒナだと思い込んでいる先輩は満足げだ。

「じゃあ帰りましょうかー。鳩じゃなかったんでおごってくださいね！」

「惜しくもヒナだったからな……。よし、マクドナルドに行こう！」

私と先輩の日常は、ほぼ毎日こんな調子である。

「次はどんな魔法が見たい？」

「とりあえず、二度と先輩の前で手品の話題は出しません」

END .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8872h/>

私の恋人は魔法使いです。

2010年10月21日02時17分発行